



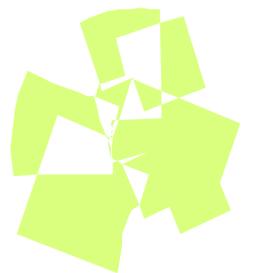
第 37 回

日本静脈学会総会が

6月15日(木)～16日(金)に
徳島あわぎんホールにて
開催されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生が
学術発表されますのでご紹介します。

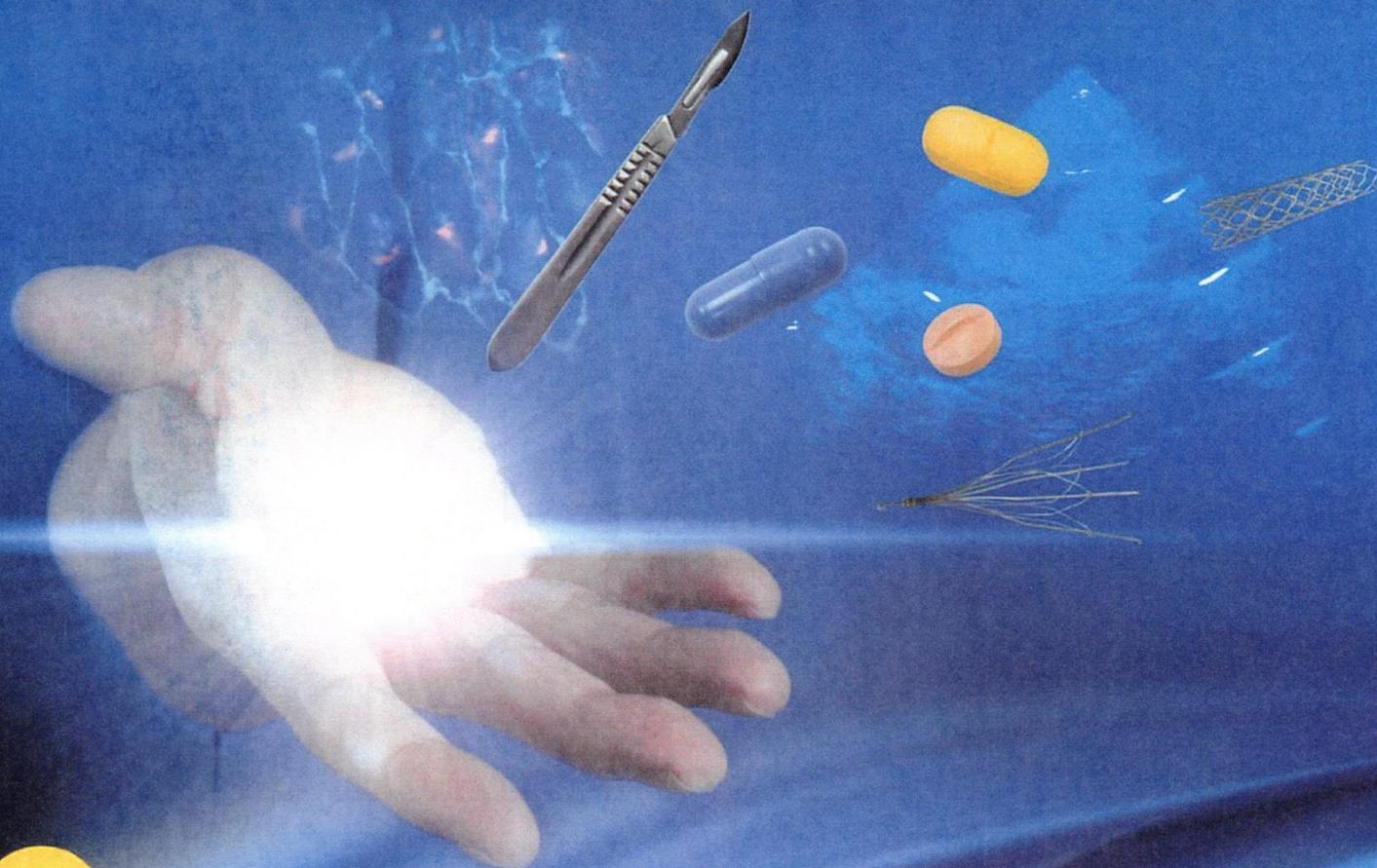


THE 37TH ANNUAL MEETING FOR JAPANESE SOCIETY OF PHLEBOLOGY



第37回日本静脈学会総会

静脈学 -Its Diversity and Innovation-



会長

北川 哲也

徳島大学大学院 医歯薬学研究部
心臓血管外科学分野・教授

2017年

6/15(木)→16(金)

あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)

学会事務局

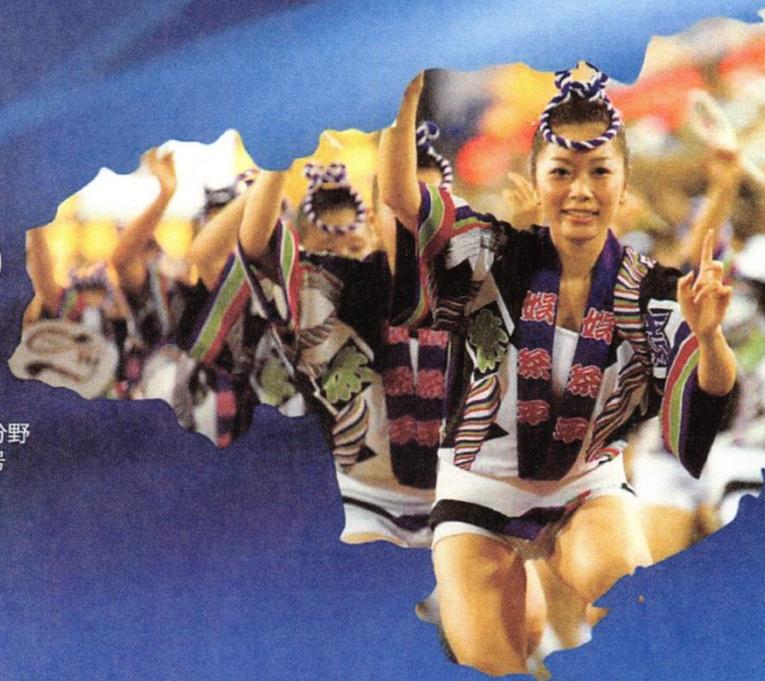


徳島大学大学院 医歯薬学研究部 心臓血管外科学分野
〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町3丁目18番15号
TEL: 088-633-7581 FAX: 088-633-7408
E-mail: jsp37@tokushima-u.ac.jp

運営事務局

株式会社 グラフティ
〒107-0052 東京都港区赤坂1-7-19 キャピタル赤坂5階
TEL: 03-3583-1740 FAX: 03-5545-5142
E-mail: jsp37@graffiti97.co.jp

<http://www.sec-information.net/jsp37/>



圧迫療法の普及と地場産業の復興を目的とした

NARA ソックス・プロジェクト

NARA Socks Project aiming at a spread of compression therapy and a revival of local industry

今井崇裕¹ 齊藤精久² 竹中美鈴³ 和田小百合³ 黒瀬満梨奈³ 長村果奈³
今谷敏司⁴ 書川 敬⁴ 岡本 健⁴ 池乃内英明⁴ 山下哲児⁵ 西岡志真⁶

¹ 西の京病院 血管外科

² 西の京病院 内科

³ 西の京病院 看護部

⁴ 西の京病院 検査科

⁵ 西の京病院 放射線科

⁶ 西の京病院 薬剤部



日本静脈学会発表 抄録

【はじめに】奈良県は国内随一の靴下産地で、全国靴下生産数量の 37.4%を占める。近年は低コストの東南アジアの輸入品が急増し、生産量は最盛期の 2 割程度に激減している。靴下産地の伝統的な製造技術と高品質の靴下を伝えるため、県下の会社と市販用ハイソックスタイプの着圧ストッキングを製作した。製作したストッキングを着用し、前後の下肢周囲径の変化、下肢血流の増加効果、官能検査を検討した。当院の看護研究倫理委員会に研究目的・要旨を申請し、承認を得た。

【対象】2017 年 1-3 月。対象は研究の同意を得た健常ボランティア 30 名(男女比 14/16 34.5 歳)。

【方法】製品仕様はナイロン・ポリウレタン。製法は丸編み。編み機は G525H-200N(ロナティ社, イタリア)。設計着圧は AMI3037-10(株式会社エイエムアイ・テクノ, 東京)で測定。10 回の洗濯試験を行い、ダミー平均圧迫力は足関節/腓腹部:32.2/16.8hpa で維持。被験者の計測は弾性ストッキングコンダクターが担当した。下肢周囲径は足関節部, 腓腹部, 大腿中間部で測定。圧迫圧はピコプレス (Microlab Elettronica 社, イタリア)を用い, 足関節部, 腓腹部外側で測定。体位は立位および仰臥位とした。血流は座位で CVT が超音波パルスドプラ法によりストッキング着用前, 着用 20 分後, 40 分後の膝窩静脈の最高血流速度(PV)と血管径(VD)を測定。官能検査はアンケート方式で, 既存の医療用弾性ストッキングと比較した。着用 15 分間の歩行後, 履き心地, 圧迫感, 通気性を評価した。

【結果】着用後の下肢周囲径は減少し, 20 分後の膝窩静脈 PV は増加した。官能検査は既存のストッキングより満足度は高かった。

【結論】薬事承認を受けた医療用弾性ストッキングによる厳密な圧迫療法はできないが, 血栓症予防など用途を限れば下肢静脈還流促進に有効であると思われる。この研究をもとに, 県下の医療機関・靴下会社・大学生とともに PR 活動を行い, 圧迫療法の普及と地場産業の復興に貢献したい。

下肢静脈に対する MR Venography の実用化への取り組み

○山下哲児¹⁾ 原田修一¹⁾ 今井崇裕²⁾

1 西の京病院 放射線科

2 西の京病院 血管外科

【はじめに】MRI で下肢静脈の解剖学的情報を評価するため、描出能を向上させる方法について検討した。

【対象】期間は平成 28 年 6 月から 11 月までの 6 か月間でボランティアの健常者 7 名（男性 4 名、女性 3 名、平均 35 歳）で行った。

【研究方法】撮影体位を仰臥位と腹臥位で撮影し血管描出を比較、エコー時間（以下 TE）を変更し任意の静脈と軟部組織でコントラストを比較、足底への約 50°C のホットパックの挿入による加温の有無により血管径を比較、以上の 3 点での比較評価を行った。

【結果】撮影体位では仰臥位から腹臥位にすることで、全ての評価血管において描出能は向上した。TE の変更では TE を長くすることでコントラストは上昇し、TE100msec が最もコントラストが良好であった。加温の有無では表在静脈での血管径の拡張は一部で認められた。MIP 法による画像を比較した結果、一部で明らかな表在静脈の血管描出の向上が認められた。

【考察】撮影体位は腹臥位にすることで大伏在静脈が近位になるほど、より腹側へ位置していることから血流が促進されたと考え、小伏在静脈では膝をやや屈曲することにより血流の途絶が改善されたと考える。しかし、高齢者などは長時間の撮影が苦痛になる可能性があることが欠点として挙げられる。TE の変更では TE が長いほどコントラストが良かったが、深部静脈で血管信号が Flow void していた。目的部位によって TE を変更して撮影する必要があると考える。加温の有無ではむくみを自覚していた被験者の大伏在静脈や穿通枝の描出が向上した。これは加温により血管径が拡張したことが原因と考えられ、むくみやリンパ浮腫で血管描出が低下する症例に対しては簡易的な加温でも十分な血管描出の向上を図れる可能性があると考えられる。

【まとめ】MRI での下肢静脈の描出は有用であると思われ、今後は下肢静脈瘤疾患の術前評価法として実践していきたい。